

革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)

25年度補正予算案：550億円（新規）

事業概要・目的

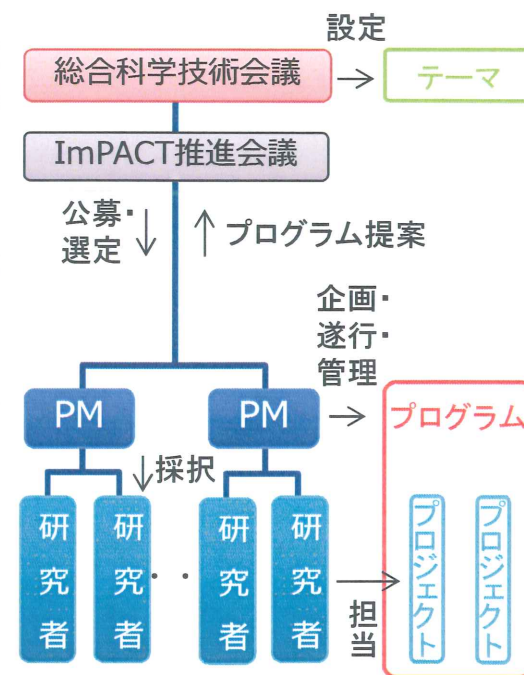
- 総合科学技術会議（CSTP）の司令塔機能の強化の一環として、実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす革新的な科学技術イノベーションの創出を目指し、ハイリスク・ハイインパクトな挑戦的研究開発を推進する。
- 最先端研究開発支援プログラム（FIRST）における研究者優先の制度的優位点と、研究開発の企画・遂行・管理等に関して大胆な権限を付与し、非連続的イノベーションの創出を目指すプログラム・マネージャー（PM）方式の利点を融合した、新たな研究開発推進プログラム。

事業のスキーム

- CSTPが責任を持って、制度全体を一体的に運営し、司令塔機能を強力に発揮。
- PMは、身分・処遇の確保と活動を支援するため、科学技術分野における資金管理、知財活用、調査分析、広報等について豊富な実績を有する（独）科学技術振興機構（JST）に所属させ、同法人に基金を造成。

事業の進め方

- CSTPが、我が国の産業競争力の飛躍的向上、社会的課題の克服の観点からテーマを設定し、PMを公募。PMが具体的な研究開発プログラムを提案し、CSTPが選定。
- PMは、プログラムの課題解決のために必要な研究プロジェクトと担当する研究者を採択。目利き力を発揮して、優秀な技術と人材を結集し、自らの権限と責任で臨機応変にプログラムをマネジメント。



期待される効果

- 成長戦略の重要な柱である「科学技術イノベーションの推進」を強力に加速する。
- 非連続イノベーションの実現により、新規市場や産業を創出し、将来の経済成長に大きく貢献できる。

革新的研究開発推進プログラム（IMPACT）

○平成25年度補正予算案に550億円を計上

「好循環実現のための経済対策」（平成25年12月5日閣議決定）の具体的施策に位置づけ

事業の目的

- 実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす革新的な科学技術イノベーションの創出を目指し、**ハイリスク・ハイインパクト**な挑戦的研究開発を推進する。

事業の特徴

- 最先端研究開発支援プログラム(FIRST)における**研究者優先**の制度的優位点と、研究開発の企画・遂行・管理等に関して大胆な権限を付与し、非連続的イノベーション*の創出を目指す**プログラム・マネージャー（PM）方式**の利点を融合した、新たな研究開発推進プログラム。

* 積み上げではない技術の連続性がないイノベーション（例．ガソリン車→燃料電池車）

事業のスキーム

総合科学技術会議(CSTP)が司令塔機能を強力に発揮し、制度全体を一体的に運営

○CSTPが以下の観点からテーマを設定し、PMを公募

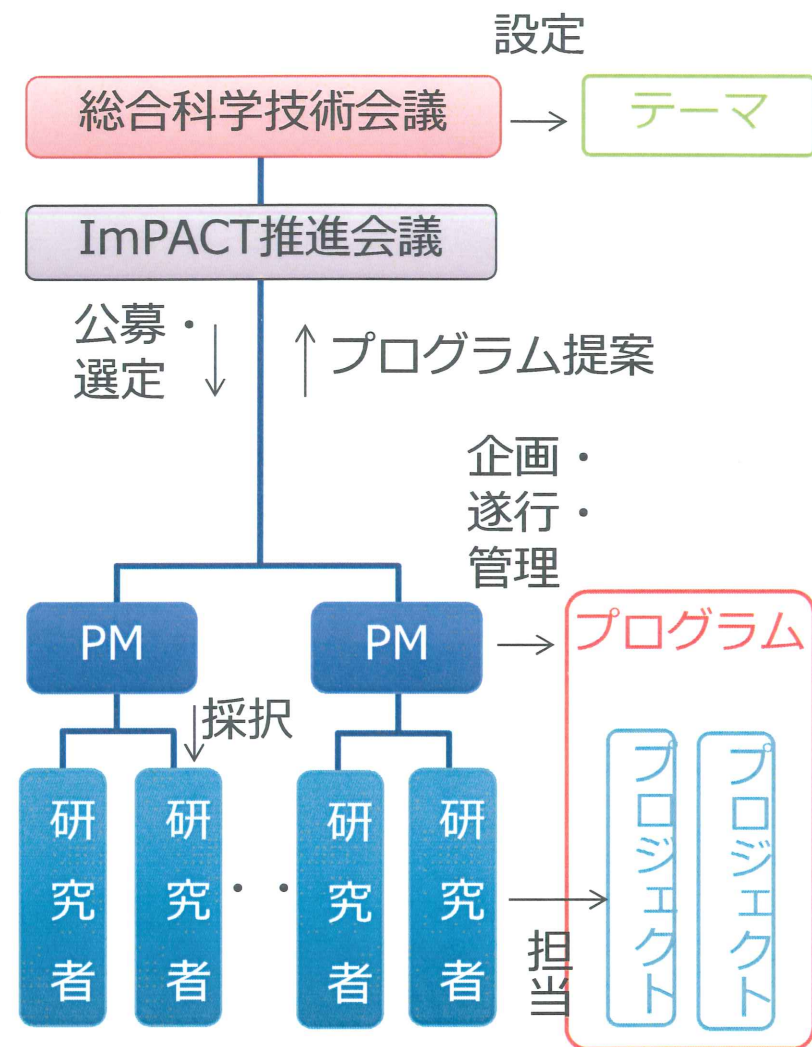
- 我が国の産業競争力を飛躍的に高めるもの
- 我が国が直面する深刻な社会的課題を克服するもの

○PMが具体的な研究開発プログラムを提案し、CSTPが選定

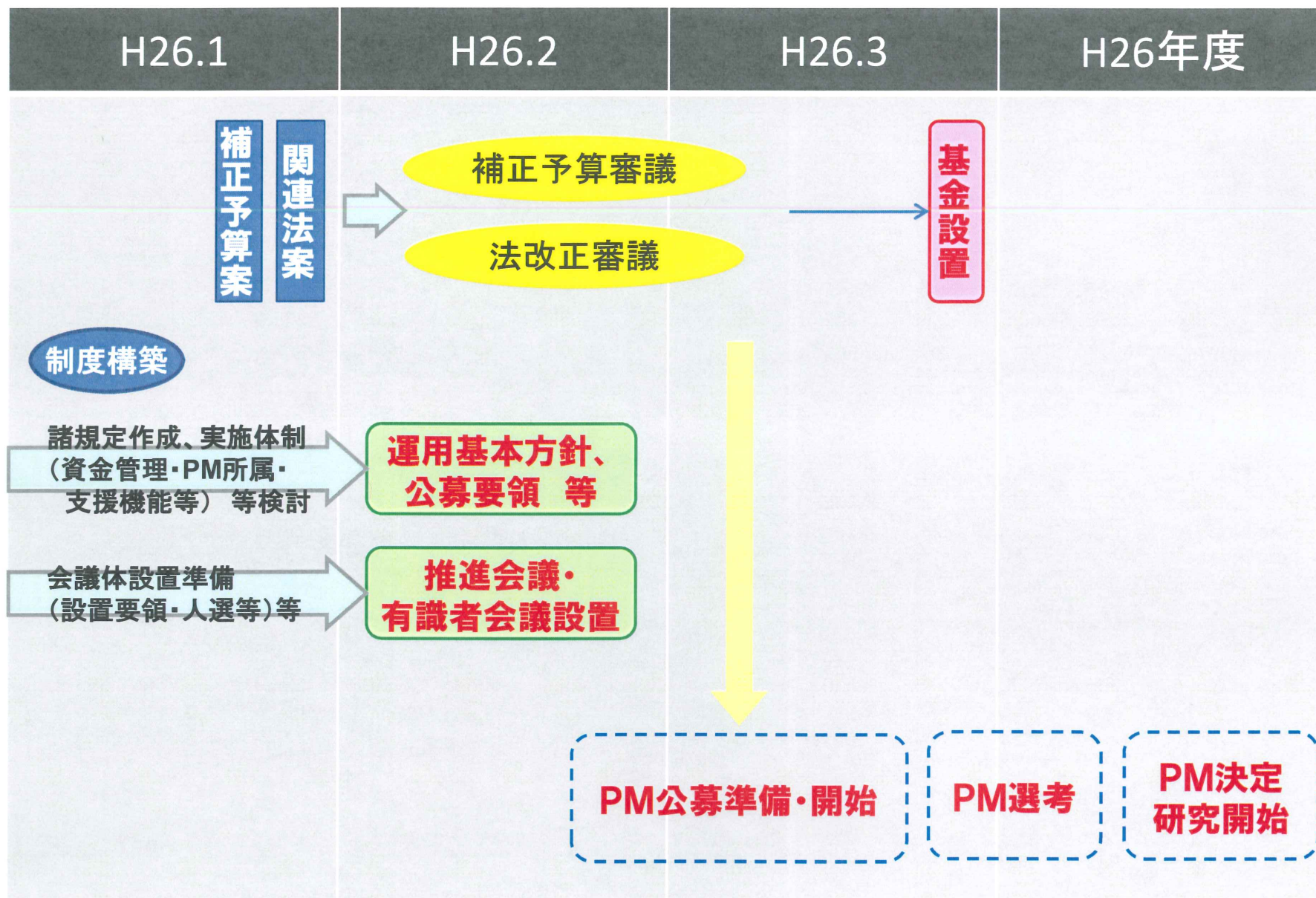
○PMが、プログラムの課題解決のために必要な研究プロジェクトと担当する研究者を採択。
目利き力を発揮して優秀な技術と人材を結集し、自らの権限と責任で臨機応変にプログラムをマネジメント。

※PMは、身分・処遇の確保と活動を支援するため、科学技術分野における資金管理、知財活用、調査分析及び広報等について豊富な実績を有する(独)科学技術振興機構(JST)に所属させ、同法人に基金を造成。

※一部調整中の事項有



今後のスケジュール(予定)



最先端研究開発支援プログラム(FIRST)



先端研究助成基金1,000億円（平成21年度～平成25年度）

FIRSTの特長

世界のトップを目指し、我が国の中長期的な国際競争力・底力の強化を図ることを目的として、研究者がその能力を最大限発揮できるよう、「研究者を最優先」した従来にない全く新しい研究支援制度

- 5年で世界のトップを目指す30人の中心研究者を選定
- 基礎研究から出口を見据えた研究開発まで、様々な分野及びステージを対象
- 研究費は先端研究助成基金として、自由度の高い予算執行や進捗に応じた資源配分の見直しなど、柔軟な使用が可能
- 研究者が研究に専念できる体制として、研究支援担当機関を設置



山中伸弥
(京都大教授)

【iPS細胞技術の
確立】62億円



田中耕一
(島津製作所
シニアフェロー)

【次世代質量分析シ
ステムの開発】41億
円

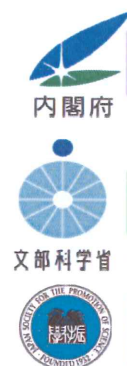


村山 斉
(東京大教授)

【宇宙の起源の解
明】34億円

.....
他27名

※助成額は加速・強化費を含む



内閣府 総合科学技術会議

課題募集・採択、プログラムの運営

文部科学省 先端研究助成基金助成金

基金を設置

日本学術振興会 先端研究助成基金

基金の交付、執行、管理

中心研究者・研究支援担当機関

世界トップを目指した研究を推進

最先端研究開発支援プログラム(FIRST)の大きな成果

世界のトップレベルの先端的な研究開発から生まれた成果

①山中伸弥：京都大学



iPS細胞を用いた世界初の臨床研究がH25.8.1より開始
(理研・目の難病患者の網膜再生)



2012年ノーベル医学・生理学賞受賞

②細野秀雄：東京工業大学



従来の常識では不可能と思われた鉄系超伝導物質を発見
百年來の製法を変えうる新しいアンモニア合成法を発見

③安達千波矢：九州大学



**従来の有機EL発光材料の弱点を克服した、新しい原理によるレア
メタルフリー・高効率の発光材料**を世界で初めて実現

30課題の成果・特許出願総件数：1255件
・論文総数：3229件 (Nature:79件、Science:11件)
・ベンチャー起業総数：5件
・参加民間企業総数：のべ113社 (H25.3.31現在)
・参加研究者数：1034名 (H24.11現在)

優れた制度の特徴

- ・研究者最優先
- ・研究費の基金化
- ・研究支援担当機関の設置